

僕の知っている米

東広島市立中央中学校

三年

岸

征寿

しろくて、ふわふわで、もちりする食感

そう、それが僕の変する母が毎日作っていた

る米だ。

米は実に不思議なものだ。自分の感情を吸

収してしまふ、ものすごい感情がアセルみた

いなものだ。怒っている時はかブ。笑って

いる時にムシヤッ。食べた後の自分の心は、

しらない。うちと総やかになつていた。でもそ

木だけではない。美しい記念アルバムでもあ

る。将来、独りで米を食べる時が来たら、今

まで家族、友達、学校の先生や生徒と食べた

米の思い出が戻ってくるだろう。

米でできた僕の一番好きな食品は、おにぎ

りである。特にコンビニでよく売っている辛

子明太子おにぎりは、いままで食べたことか

ある食べ物の中でトップテンに入るくらい最

高な食品だと個人的に思う。味がパワフル

トで、すごく便利。なにか食べたい時はおに

おこし。いそがしくは御飯が作れない時はおに
ぎり。ストレスがたまっている時はおにぎり。
友達とピクニックに行く時はおにぎり。長い
一日で疲れたかいている時はおにぎり。おにぎ
りは人の人生を援助する偉大な食品なのであ
る。
僕と米との友情関係は、と完璧ではなか
らぬのである。僕は八歳の頃、海外に引っ越
すことになった。その国では、米を食べる文
化がなかった。食べたとしても、副食のよう
な扱いだった。僕もその時、すでに米を食べ
るのがあまっていた。左、周りのみんなのま
は米を食べる習慣を捨てた。最高だった。米
の割合がおおむね世が気楽に食べることに
たかくなった。その満足感には長く続かなか
った。その国の料理がまずかった。あけはな
いか、何か足りなかった。そう。米だ。八年
間続けで食べてきた米の味が寂しくなるとし
まうたのである。この経験から一つのことに加
あかる。それは、米は非常になじみやすいも

のびあることだ。

次に、米の由来について話そう。調べた

結果、米は「籠める」の連用形が動詞化した

とす。説が有力と成った。このころから、

「籠める」の語が多用されるようになった。改まった儀

式の場合であった。このころから、米には神聖なもの

や生命力のよくなものがある。籠め

られたものの意味で「コメ」になった。たと

え「ネット」で書いていた。これを讀んだ後、僕は

おもしろい。なかなら、米は今の時代では一

般的なものがあるが、昔ではある。昔は

値があつた。ありえなかつた。いま私た

ち加粒上でいる時代では、昔と比べて食料が

手に入りやすい。昔では何年かかかしたもの

今ではすぐに手に入ることだ。昔は

すべし。この事実を知つた僕は、今ま

で努力し、このすばらしい時代を作りあげた

人に対する感謝の気持ちが高まった。僕もそ

の努力を引き継ぎ、次世代をより良く築きた

く成つた。

米は僕に對して多くの益をもたらして来た。
おかしい味だけれどはなく、いりいりな人生に
役立つ教訓をもたらして来た。僕と米の旅
はまだ終わってはいない。二本から七引を続
米と一緒にガ・バスト・ランフを生きていま
たい。